

【テーマ6】 団体名 横浜国立大学

「企業の研修ノウハウを活用した小学校プログラミング教育での教員研修の効率化に向けた要件調査」

調査の概要

◆課題認識

- ・ 小学校プログラミング教育の教員研修の必要性
- ・ 研修方法の検討

◆調査研究の目的

- ・ 遠隔研修に対する教員の意識を調査
- ・ 研修を受ける教員の学びのスタイルの分類が必要

◆調査研究の方法

- ・ Web調査および事例研究

◆調査研究対象

- ・ 教員免許更新講習の受講者
- ・ 小学校プログラミング教育を受講した大学生

◆現状

- ・ 遠隔研修に対する教員の意識調査が少ない
- ・ 遠隔研修実施の指針が得られていない
- ・ 教員のプログラミング経験が少ない
- ・ プログラミングの研修の方法が明確ではない

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・ 小学校プログラミング教育の経緯
- ・ 学びのスタイルの先行研究

②ポイントB

- ・ 調査1 遠隔研修に対する教員の意識調査
- ・ 調査2 教員の学びのスタイルの分類
- ・ 調査3 プログラミング教室で扱われる内容

グループ学習

計画的自己学習

挑戦的課題学習

結果の確認を重視

数学的手順を重視

図：教員の学びのスタイル

◆成果

- ・ 遠隔研修に対する教員の意識調査では、遠隔研修のメリットとして、時間と場所の制約がなくなり、自分のペースに合わせて学ぶことができ、デメリットは、話し合いなど一人で解決できない課題で困難さを感じていた。
- ・ 学びのスタイルには5種類あり、それを支える批判的思考も5つの分類が得られた。

今後の課題

◆「教員研修の方法と学びのスタイルの連携」の支援

- ・ 小学校プログラミング教育における教員研修の方法の検討と、それに合う教員本人の学びのスタイルとの連携を調査する
- ・ 遠隔研修と集合研修のハイブリッド型の研修の検討も今後は必要である

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イー②については、文部科学省において公表する。